

# ひとりから

真宗大谷派青少年センター機関紙 『ひとりから』  
発行日/2014年3月1日(年4回発行)  
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少年センター  
〒600-8168 京都市下京区室町通六条下る  
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599  
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp  
発行人/青少年センター長 木越 渉



## 蓮ちゃん通信(その①)

2014年4月16日(水)~17日(木)

## ひとりからはじめる 子ども会 講習会開催!



子ども会開設の手引き「ひとりからはじめる子ども会」をテキストとした講習会を青少年センターで開催します。子ども会開設にむけての悩みを共に考え、その実践について体験していただきながら学ぶ講習会です。【定員10名/3月24日(日)申込締切】  
※詳しくは、『真宗』誌2月号・3月号をご覧ください。

## 子ども会情報募集中!

“お寺にどう子どもたち”の写真や子ども会の内容をお寄せください。  
「郵送」または「E-mail」  
oyc@higashihonganji.or.jp  
「『ひとりから』子ども会情報係」まで

## ひと知るもよし 知らぬもよし われは咲くなり

(武者小路実篤)

青少青少年センター幹事 福嶋 龍徳

私たちは言葉に出会う。そして、「出遇った言葉にこちらがつかまれて離れない」ということがある。私にとって、この詩がその1つである。  
「われは咲くなり」とあるが、この「われ」に草木を思う。  
草や木は、まわりに知ってもらおうと、もらうまいと、自らのいのちを、動くことの出来ない、授かったその場でイキイキと生ききっている。  
先達は、この草木のすがたに気づかされ、自らの生に重ね「われは咲くなり」と、叫ばれた。  
私にとっては、この言葉との出遇いが、子どもたちとの出遇いにつながっている。  
それは、子どもたちの、いのちいっぱい生きるすがたである。  
今日も子どもたちの元気な声が境内に響いている。



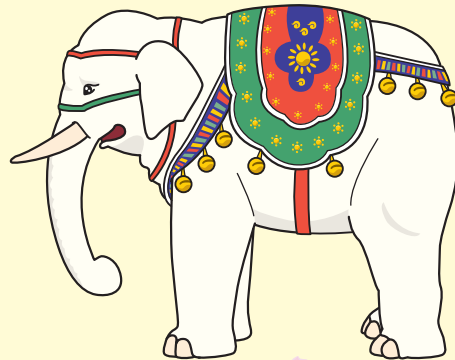


# 祝花まつり

おしゃかさまのおたんじょう

4月8日は、わたしたちに仏さまの教えを伝えてくださったおしゃかさまの誕生日です。みんなでお祝いしましょう。

ひとりからはじめる  
イベントレシピ



## 花かざり

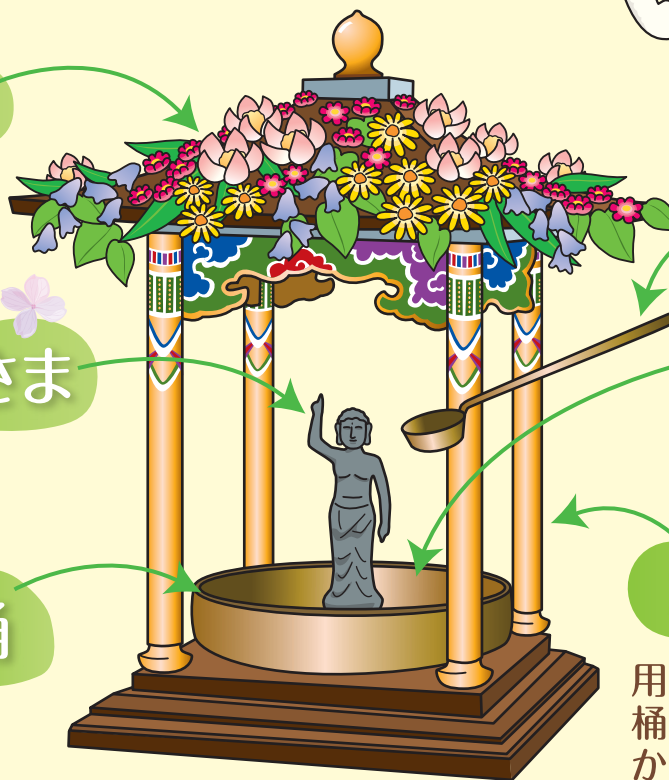
春の花で  
にぎやかに。

## おしゃかさま

誕生仏を  
おかざりします。

## 桶

花器・食器  
でも代用可。



## ひしゃく

## 甘茶

アマチャヅルを  
煎じたもの。

※漢方薬店などで手に入ります。

## 花御堂

用意できなければ  
桶のまわりを花で  
かざってもよいでしょう。



かんたんな花まつりを開いてみましょう



### 参考例

#### 〇〇こども会 花まつり次第

- 一、合掌
- 一、おつとめ
  - ①ちかい ②正信偈 ③仏教讃歌(注)
  - ※どれか1つでもかまいません。
- 一、おはなし
- 一、合掌
- 一、甘茶をおしゃかさまにかけ  
みんなでいただきます
- ※衛生面からも飲む分は別に用意しましょう。



#### ワンポイント アドバイス

- おつとめ前に、供花・供灯・供香を子どもたちに行ってもらってもよいでしょう。役をもつことで自分たちの花まつりという意識が高まります。
- 甘茶をかけるときBGMを流してみよう。雰囲気が出ます。(真宗宗歌など)

#### (注) 仏教讃歌 (楽譜) の紹介



#### 花まつりのうた

- \*あまちゃ
- \*こどものはなまつり
- \*知ってるねー子ども花まつりー
- \*花祭行進曲
- \*花祭の歌



お求めは、東本願寺出版部 (TEL:075-371-9189)

もしくは「読みま専科 TOMOぶっく」 TOMOぶっく

検索

# 花まつり

高山教区

江馬 雅臣

4月8日は「花まつり」。お釈迦様の生まれになった日です。

お釈迦様は生まれてすぐに四方を見て七歩歩き、右手は上に天を、左手は下に大地をさして「天上天下唯我独尊」と声高く叫ばれたと伝えられています。

「花まつり」には、色とりどりの草花で飾った花御堂の中に灌仏桶を置き、甘茶を満たします。そして灌仏桶の中央の「天上天下唯独尊」と天と地をさしたお釈迦様の像にひしゃくで甘茶をかけて皆でお祝いします。実は、それら一つひとつにお釈迦様が生まれた意義や、本当の人間として生きることはどういふことかというメッセージが隠されているのです。

まず、お釈迦様がルンビニー園という花園でお生まれになったことから、花を沢山飾りお祝いをします。飾った花には寿命があり、しばらくすると枯れてしまいます。同じように、私たち人間のいのちも常に変化し続け、必ず最後の日が誰にでも平等にやってくることを、花は教えてくれます。

また、花をじっくり見れば同じ花は一つとしてありません。『チューリップ』という歌に「あかしろきいろの花見てもきれいだな」とあります。こっちゃんがきれいな、こっちゃんが醜いというのではおなじみ



一つひとつが違いながらもすばらしい、一生懸命咲いています。日頃の私は友だちと比べて「あんなふうだったらいいのに、自分だけどうしてこんなのだろうか」と思いがちです。しかし、どの人も、どんな人生も「みんなちがってみんないい」ともすばらしいものだと言が教えてくれます。「七歩歩いた」とは、六つの迷いの世界をグルグル回りながらも、それよりも大切なことに気づき、目が覚めたということを意味しています。六を一步超えた七歩ということは、本当の人間として生きるといふ大事なことが見つかったということなのです。「天上」とは時間の長さ。赤ちゃんの時も小学校に通っている時も、その人であることに変わりがないということ。「天下」とは場所の広さ。世界中どこで生まれようと皆同じであるということ。「唯我」とは無条件。良い悪いと条件をつけないということ。「独尊」とは無比。他と比べるということ。

## 子どもたちと聞く法話

のできない存在といふことです。お経の中に「私は他人に代わってもらうことも、代わってあげることもできない、私が人生の責任者である。世間が自分を見捨てることがあっても、自分で自分を見捨てることはない。そついついのちを、今生きているのだ」と説かれています。

皆がお釈迦様と同じ尊さで、同じすばらしさで生まれてきたということ。生まれてなくてもよかった、生まれる必要がないのに生まれたという人は、この世に一人としていないのです。みんな価値があり、意味があり、目的があつて生まれてきているのです。

家族や友だちから「お誕生おめでとう。生まれてくれてありがとう」とお祝いしてもらったことがあると思います。そのことを通してナンマンダブツに出あうとき「生まれてきてよかった。あの人に出あえた」と気づくことができます。そして「産んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。出あつてくれてありがとう」という人生がはじまります。

私という存在は、いろんな人やものに支えられ、助けてもらい、心配してもらい、包んでもらい、育ててもらい、応援してもらいながら生きています。

「花まつり」は「お釈迦様、お誕生日おめでとう」と同時に、集った友だちと「生まれてくれてありがとう。私と出あつてくれてありがとう。一緒に生きてくれてありがとう」と、お互いの関係を確かめ合う大事な時と場なのです。

### 蓮ちゃん通信(その②)



#### リーフレット「ほとけの子」 花まつり 無償

無償でお使いいただけるリーフレットです。花まつりの子ども会でぜひご利用ください。

※詳しくは、各教務所にお問合せください。



### 蓮ちゃん通信(その③)

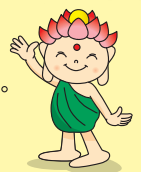
2014年3月26日(※) 福岡

#### 「絵本ではじめる講習会」開催!

絵本の魅力にふれていただくとともに、その活用について学んでいただく講習会を福岡で開催いたします。ぜひご参加ください。

【定員30名/3月14日(金)申込締切】

※詳しくは、「真宗」誌2月号・3月号をご覧ください。





# マサコのちょこっとインタビュー



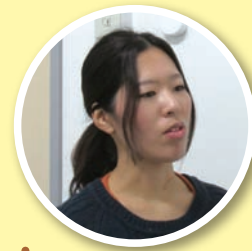
さがえ なつみ  
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学修士課程修了。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は大谷大学文学部教授で大谷幼稚園長を兼務。青少年センターの研究者でもある。カウンセラーネーム「サガエさん」です。



マサコ

機関紙「ひとりから」の編集長をつとめる。青少年スタッフでもある。



## 思春期はトンネルの「闇」

**マサコ** 子ども会に関わってくれた子どもが大きくなって、いよいよ小学校高学年から中学生を迎えると、今まで言葉が届いていたのに…と、とまどうことがあります。そして、言葉が届かない子どもへ、どのように対応したらいいのか悩んでしまいます。思春期に入った子どもに、どうということが起こっているのか、また、どう対応したらいいのか教えてください。

**サガエさん** 思春期の子どもたちをみると、「子ども」と「おとな」が混在しているような、なんとも不安定で「あやうい」と感じることがあります。そのことも含めてお話してみますね。子どもとおとなの間にあるトンネルと考えるといいかもしれませんね。誰もが通過しなければならない「人生の通過点」のひとつですね。このトンネルは、「闇」のような時期かもしれません。「闇」に入った子どもたちが、夢中で動きまわり暴走するような「あやうい行動」になるのは、そのひとつですね。思春期の子どもをみると、ずいぶん苦労して「おとな」になるんだなあとおもいます。

「じぶん」と「他者」との関係のなかで、ものごとを考えることがはじまります。そのなかで「違い」や「ズレ」に気がついて悩み、過敏になりイライラする子どももいますね。

**マサコ** この時期に入った子どもたちにとってどのような言葉がけがいいのか、どのような態度で接したらいいのか迷うのですが。「サガエさん」はどのようにお考えですか。



**サガエさん** 言葉がけも小さな子どもとも違うし、今まで通りでいいのかと悩みますよね。この時期の子どもは、柔軟で自在に相手に合わせてくれます。あなたと子どもとの関係の中で普段の会話が成立すればいいとおもいます。また、急に言葉数が減ったり、なんだかカベを感じる子どももいるかもしれません。このような時、「からかう」「いじる」ということで子どもに接近する「おとな」がいます。しかし、「からかう」「いじる」は、いかにも、親しいようにみえますが、受けるほうは自尊感情が傷つくことがあります。

それから、この時期は意思決定の大事さを身につける時期ですから、「おとな」

の高圧的な言葉や態度で、芽生えた「じぶん」をつぶすことはよくないでしょう。

## 伝えたい「君はそのままでもいいんじゃないか」

思春期の子どもたちは、思春期を通して「他者」と「じぶん」を比較し、なかには、いまの「じぶん」ではダメとおもう子どももいます。わたしたちの「子ども会」は、だれとも代わる必要のない「じぶん」と出会うことですから、「君はそのままでもいいんじゃないか」を伝えたいものです。

**マサコ** トンネルと「闇」でお話してもらい、よくわかりました。「自他」関係のはじまりの大切な時期ということのポイントに「子ども会」をすすめるべきということもよくわかりました。サガエさん、ありがとうございました。

次号からは、子ども会でのさまざまな困りごとや悩みごとを、一つひとつクローズアップしながら、お話をお聞きます。お楽しみに!!

## 大切にしたい「じぶん」と「他者」の関係

**マサコ** トンネルを通過する子どもたちは、どのようなことで悩むのでしょうか。

**サガエさん** 思春期を機に「じぶん」と、「他者」との関係がはっきりとはじめます。

青少年センターではメール相談窓口を開設しております!  
子どもたちの悩みごとにサガエさんがお返事します  
sagaesan@higashihonganji.or.jp  
(上記のアドレスから返信しますので、受信拒否設定にご注意ください)

### 蓮ちゃん通信(その①)

#### 待望の

#### 『あかほんくん勤行集』発行!

子ども会のお勤めでぜひお使いください。子ども報恩講でもお使いいただけるように和讃も同朋奉讃で2種類(「弥陀成仏のこのかたは」・「弥陀大悲の誓願を」)、御文も2種類(「末代無智」・「聖人一流」)を掲載しております。

※お求めは、青少年センターまでお問合せください。

【価格】200円



◎季節ごとにお送りする機関紙『ひとりから』も今回の号で春夏秋冬を巡りました。春は春、夏は夏としてあるように、子どもも大人もお互いを確かめられる場としてお寺が存在する、そんな春が来るように…。さあ、「ひとりから」はじめる子ども会!! 次号は新年度七月一日発行予定です。―われも人天さす子ども灌仏会―(青せ主幹)

◎暖かくなる春、花まつりをきっかけに「子ども会」を開いてみませんか。春は新学期、出あいの季節でもあり、不安や緊張を抱える子どももいるかもしれません。子どもたちと一緒に「天上天下唯我独尊」というお言葉を聞くことができたらと思います。(編集長)

編集後記

